

イギリス育児の現状

イギリスでは日本のような公立保育園といったものがないので子供を預かってもらうにはかなりのコストがかかる。そのため産休を取ったものの、そのまま会社を辞めてしまう人もいるよう。コストを考えると二の足を踏んでしまうのだ。2歳ぐらいからはナーサリー(日本で言う幼稚園)のコストがぐんと安くなるという事で子供が1-2歳になってからは復帰する人が多いよう。

また需要から見るとまだ不足しているという声もあるイギリスの育児施設だが、選択肢も広く、設備も大変整っており、イギリス人の幼児教育への認識の高さが伺える。背景にはこういった決まりがあるからとも言える。イギリスでは

- ・ 小学校への送り迎えは、親かそれに同等する者と義務付けられている
- ・ 6歳未満は家で留守番等をさせてはいけない

しかし延長保育などを考えると日本の方がフレキシブルだ。日本の場合は朝7時半から夜7時半、区によっては10時ってところもあり、料金も安くミルク、ボトル、おむつは用意する必要がない。(イギリスでは用意しなくてはならない。)

「ゆりかごから墓場まで」という言葉(福祉が発達しているという代表的なうたい文句)が謳われているイギリスだけに働くワーキングマザーにはよい施設が整っているのかと思ったら、さにあらずと感じずにはいられない事だろう。それでもイギリスのワーキングマザーの率は日本より多いのが現状だ。

育児サービス/施設

さて、イギリスのワーキングマザーの強い育児の味方でメジャーなものと言えば以下の4つ。

- ・ ナニーを雇う
- ・ ベビーシッターを雇う
- ・ チャイルド minder に預ける
- ・ ナーサリースクールに通わせる(日本でいう幼稚園)

1. ナニー

家に住まわせて、お小遣い、お給料を払ってベビーの面倒を見てもらうという方法。

- ・ 資格の有無や経験年数等により大きな差があるが、ベテランのイギリス系のナニーさんと日本円で700~800万円は年間にかかる。
- ・ 学生(東欧系の留学生が多い)の場合は1時間5-6ポンドぐらい(約1,200円から1,300円ぐらい)。
- ・ しかし昼間英語を学ぶ語学学校に行かないといけないので、ベビーを1日預けるとなると問題が発生。ベビーになれていない子もいて不安な点も。
- ・ 家のプライベートやセキュリティを守りたい人は避けたいところ。

<ベテランのナニーさんを雇っているナニーエージェントに連絡して派遣してもらうのが無難>

2. ベビーシッター

家にきてもらって面倒をみてもらうという方法。

- ・ 比較的経済的。ピンからキリまでであるが1時間6ポンドぐらいからが相場。(約 1,300 円)
- ・ やはり家のプライベートを守りたい人は避けたいところ。

<通常、個人で新聞広告を出して面接などを行い雇う>

3. チャイルド minder

一般的に自宅に子供を招いての在宅保育を行う

ちなみにチャイルド minder とは・・・

60 年以上前から、イギリスでは認められてきた制度で、乳児から学齢児童までを預かり身の発達を助ける保育をする者として活躍してきたそう。公立の保育所が少ないイギリスでは、子供を育てながら働く女性をチャイルド minder が支えていると言っても過言ではないほど浸透しているそう。日本では民間資格の為まだあまり知られていませんが、本場イギリスでは「国家職業基準資格」(OFSTED という協会に登録)として位置づけられている。

- ・ ベビーを預けるには、ボトル、ミルク、おむつ、離乳食、着替えなどを用意しなければならない。
- ・ 1 歳以上になるとチャイルド minder さんの家で食事を用意してくれる。
- ・ 実際はだいたい赤ちゃんから 2 歳ぐらいまでの子供ばかり。
- ・ いろいろな子供が喜ぶようなイベントも (ハロウィン、クリスマスとか) やってくれる。
- ・ 中にはフレキシブルな対応をとってくれる方もいて長時間、泊まりもありのチャイルド minder さんも。
- ・ 料金はピンからキリまでであるが1時間3-4ポンドからが相場。(約 690 円ぐらい~900 円)、夜 7 時以降は 7 ポンドなど(約 1,300 円~1,600 円)

管轄のカウンシルでチャイルドサービスといったような名前のあるところがあるので、そこに連絡して今現在空きがあるチャイルド minder のリストを取り寄せて連絡をとる。

※ チャイルド minder は人気なのでいつもフルで埋まっていることが多い。

早めに情報を入手してコンタクトを取って面接するほうがよい。(実際リストをもらいかたっぱしから電話したが空いているチャイルド minder さんは 2 人しかいなかったというケースも・・・)

ちなみに Ofsted とは・・・

Office of Standards in Education 教育水準検査局の事でイングランドの学校監査を行う独立した政府機関。

教育の水準維持と向上のため 1993 にサッチャー政権によって設置された。

各学校へ定期的に検査官を派遣して、その検査を政府に報告する。

ホームページで検査結果が読める。 <http://www.ofsted.gov.uk/>

4. デイナーサリーに通わせる

- ・ 日本でいう保育園
- ・ 生後 3 ヶ月～義務教育が始まる 5 歳まで
(イギリスの義務教育は日本より早くスタートします。)
- ・ 朝 8 時～6 時までがだいたいのナーサリーの時間、最高 10 時間まで預かってもらえる。
- ・ 3 ヶ月以上 2 歳未満の場合
月 900 ポンド～1,200 ポンドぐらい。約 20 万 7 千円～27 万 7 千円。
- ・ ミルク、ボトル、おむつはこちらで用意しなければならない。離乳食は用意してくれる。
- ・ 夕方 6 時以降は預かってくれない(OFSTED が 10 時間以上は預かってはいけないと決めているため)。例えば朝 7 時半～6 時半までやっているナーサリーの場合でも朝 7 時半から預けたら、5 時半までしか預かってくれない。しかし、そもそもイギリスでは労働時間は 9 時から 5 時までで基本残業はしない主義なので 6 時にお迎えに間に合う通勤距離であれば大丈夫という説も。(フレキシブルに働けるようにする制度もありますが。)

チャイルドマインダーと同じようにカウンシルの管轄のチャイルドサービスというような名前の管轄の部署に電話してリストを取り寄せる。

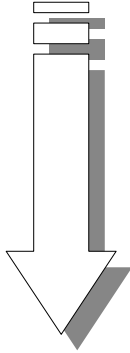


自分の子供に合って、しかも通勤に便利な所をピックし、パンフレットを取り寄せて、アポイントメントを取ってダイナーサリーを見学させてもらう。

<http://www.workandfamily.jp/personal/world/>

海外長期滞在中、子供は現地でどのような学校に通えるか

5歳(4歳)以下



5歳(4歳)以上

大学生(院生)として長期留学する場合は大学の託児施設が利用可能。大きい大学なら託児施設があるはずなので、空きや利用条件を大学側と確認する。
大学(院生)留学以外でも、自分の入学する学校へ相談すればいくつか紹介してくれるはず。実際には、渡英して自分の滞在先が決定してから、通える範囲で空きのあるところを探すことに。

<預け先> 託児所や幼稚園。私立と公立が。

- ・ 託児所(デイナースアリー)は主に仕事を持つ親が預ける施設。生後半年位から午前中のみ、週3日など、自分の都合に合わせて預けることが可能。
- ・ 幼稚園(ナースアリーやプリ・プレップスクール)は2歳半頃～
- ・ この他、ナニー、ベビーシッターやチャイルド・マインダーを利用するという選択も。

<預け先> 小学校。私立校と公立校が。

公立校

- ・ 留学生の子供は、16歳未満ならばフルタイムの教育を受ける義務があるため、公立校への入学が可能。その際は教育委員会へ相談。但し認められるのは長期の留学生の子供のみ。
- ・ 地域により学校の質に差があり住まいの近くの学校に空きがない場合も。

私立校

- ・ 入学時に審査や英語のテストがある学校も。
 - ・ インターナショナル・スクールや1学期単位で入学可能な学校も。
- * イギリスの義務教育は5歳からだが、実際には多くの子供は4歳から小学校付設の準備クラス(レセプション・クラスと呼ばれる)からスタートする。イギリス公立校では5～7歳までが INFANT SCHOOL、8～11歳までが JUNIOR SCHOOLに通う。名前は異なるが2つの学校とも同じ敷地内にあり、児童もほとんど変わらない。

ワーキングマザーに痛いのは学校の休み・・・

- ・ 5歳から始まる義務教育の学校は3時半で終わってしまう。
- ・ ハーフターム、イースターホリデーという1-2週間の学校の休みが年3、4回ちょこちょこある。
- ・ 夏休みも長い。6月ぐらいから9月の半ばまでのところも。

(その間はアクティビティスクールやキャンプ等に通わせる事が多いがそれでも朝8-夕方5時までなど)

そこでうまく活用できるのがベビーシッターやチャイルドマインダー。(併用する人も。)

3時半の下校時やキャンプ終了後に子供をピックアップしてもらって家で待ってもらおうという風に使える。

<http://ameblo.jp/leira-london/entry-10048600089.html>

上記で紹介したもの以外のものもまとめてみると・・・

幼児教育施設

- ・ レセプション・クラス
- ・ ナーサリー・クラス/ナーサリー・スクール
- ・ プリスクール プレイグループ
- ・ トドラーグループ Toddler Group

託児施設

- ・ デイ・ナーサリー
- ・ クレッシュ crèches
- ・ チャイルド・マインダー
- ・ ナニー Nanny
- ・ Out of School

(After School Club, Holiday Club, Breakfast Club)

託児施設・サービス情報(主に働く親が預ける)

施設・サービス	年齢	時間	内容	参考
チャイルド・ マインダー Registered Child Minder ※日本でいえば 「保育ママ」	生後 数ヶ月～ 8歳	1日2時間以上 (保育時間は、親との 間で取り決める。)	近親者以外のものが、子 供の保育を自宅で行う。1 人のチャイルド・マインダ ーが預かることができるの は、自分の子供を含めて 6人まで。5歳以下の子ど もなら1人3人まで。自分 の子供と一緒に他人の子 供を預かることが多い。	認可されたチャイルド・マ インダーになるには、トレ ーニングを受け、Ofsted 登 録必須。
デイ・ナーサリー Day nurseries ※主に働く親が子供を預 けるところで、日本で いうと保育園といった	5歳 以下	毎日また週に数回だ け、午前中だけなどい ろいろなパターン 休日以外は1年を通じ 8時～6時頃まで	ナーサリー・クラスに近い が、スタッフと子供の割合 はナーサリー・クラスより は高い。スタッフ1人に対 し子供が 2～3歳なら4人まで	Ofsted 登録必須。 公立、私立があるがほと んどが私立。公立は要保 護児童を対象にしている ため、一般の就業する親 の子どもが利用するのは

ようなもの			2歳以下は3人まで。	私立のナーサリーになる。
ナニー Nanny			チャイルド・マインダーとの違いは、ナニーは相手の自宅へ出向き子供の面倒をみる。ナニー・シェアーと違って他人の子供と一緒に預かってもらうことも出来る。	ナニーとしてトレーニングの必要はなく登録する義務はない。 (最近まできちんとしたガイドラインもなかった) ナニー・エージェントが探してくれる。
クレッシュ crèches	8歳以下	短時間、臨時	プレイグループのようなもの。スタッフと子供の比率は1:8。	Ofsted 登録必須。 ショッピングセンター、スポーツセンター、図書館、大学などにある。
Out of School (After School Club, Holiday Club, Breakfast Club)	4〜12歳	学童保育 朝食クラブ 休日保育	働く親を持つ子供が学校登校前や登校後に利用するクラブ。	多くは、私立、非営利団体で運営されている。

ちなみに、イングランドでは無償の就学前教育制度が確立されている。機関には
Nursery School(2〜5歳未満)
Infant School(4〜7歳)に併設された Nursery Class(3歳〜5歳未満)など。
給食は有料だが、弁当を持参してもよい。遠足も実費がかかる。

幼児教育施設情報

施設・サービス	年齢	内容	時間	参考
ナーサリー・クラス ナーサリー・スクール Nursery class Nursery schools ※日本でいう幼稚園にあたる。	義務教育開始までの 2〜5歳未満	遊び中心。 独特の教育理念を持つモンテソーリとかシユナイターといったスクールもこの種類になる。	9時〜3時半 午前と午後 クラスがある。 小学校と同じ 期間運営されるので、スクールホリデーがある。	小学校に付設しているナーサリー(このパターンが公立では大半)と単体のナーサリー・スクールがあり、殆どが私立。 公立は数が少ないためどこも普通は皆かなり早い時期から申し込みをする。レセプション・クラスに行くまでの幼児教育でナーサリー・スクールからレセプション・

				クラスへ移る子供が多い。
プリスクール プレイグループ Preschool Playgroup ※イギリスではかなり一般的で約半数の子供が通うと言われている。	3～5歳くらい (普通2歳半から4歳まで)	子供は遊びを通してさまざまな活動をする。1クラス通常10～20人(26人を超えてはいけない)。大人1人に対し子供が3～5歳なら8人まで、2～3歳なら4人まで。	週に数回 2、3時間	Ofsted 登録必須。 人気のあるグループはウェーティング・リストがある。 最低大人1名が資格保持者でなければならないという規定がある。 非営利で親やボランティアによって運営されている。
トドラグループ Toddler Group	Toddlerとは、よちよち歩き始めの2～4歳ぐらいの幼児のことで、3歳位まで	親子一緒に参加 日本の育児サークルのようなもの。	週1、2回 一回 1～2時間	Ofsted 登録不要。 教会や公共施設を使用 1ポンドくらい。
レセプション・クラス Reception Class ※義務教育がスタートするクラスで、小学校に付設 (日本でいうと幼稚園の年長さんの学年)	4～5歳	担任が1人、副担任が数人付く。1クラス約30人。読み書きや計算、読み方の練習をする。宿題も出され、少しずつ 小学1年に向けて勉強させられる。	全日制で午前9時～3時半、小学校と同じ期間運営	公立と私立がある。イギリスの多くの子供が通う。 ナショナル・カリキュラムに沿って学習する内容が決められている。

イギリスの幼児教育助成金

イギリスでは3～4歳の子供の教育費は一定時間分、政府(地方自治体)から支給されます。

子供の学校や託児所探し

<事前に探す方法>

自分で探す

- ・ 滞在地域の情報を集めて、教育委員会などへ問い合わせをし、可能性のありそうな学校をピックアップ
- ・ 現地へ到着後、実際に学校を訪問し校長や園長と面談し、実際の入学手続きと進むのが普通。

渡英前に探すには具体的な情報はなかなか入ってこないの、限界がありますが英語が得意でイギリス留学や海外生活の経験がある、現地に知り合いがいるのであれば、個人で手配しても問題はなさそうです。

ブリティッシュ・カウンシルや下記サイトからもある程度の情報を得ることができるかもしれません。

イギリス各地の学校の検索ができるサイト

[ブリティッシュ・カウンシル](#)（日本語）

[Directgov](#)（英語） イギリス政府運営の公共サービス情報サイト

[Sure Start](#)（英語） イギリスの公的な子育て支援プログラム イギリス各地域の保育施設が検索できる

専門の留学エージェントを利用する

あれこれ手探りで一から情報収集し、数多い選択肢の中からベストのものを選ぶのはやはり相当大変です。イギリスは教育や育児制度が変更になることも多いことから、イギリスについていろいろ知っていると自負している人でも、エージェントに相談してみるといいでしょう。新しい情報もあるかもしれません。

下記のようなエージェントもあります。

http://ukiss-japan.co.jp/2007/12/post_16.html